

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。

[A…よくあてはまる, B…あてはまる, C…あてはまらない, D…まったくあてはまらない]

※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

「よくあてはまる」で評価
()内は「よくあてはまる」「あてはまる」
合わせたポイント

A…とても良好
B…良好(目標)
C…検討が必要
D…再検討・改善

Table with 10 columns: 重点, 経営ビジョン, 具体的な取組(重点項目), 質問紙NO., 評価の観点, 達成基準, 6月(現状), 9月, 12月, 結果分析・改善, 学校関係者評価, 次年度に向けて. It contains detailed evaluation data for two main areas: 'School Management Improvement' and 'Student Learning Power Enhancement'.

2	生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・家で勉強している生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・ガリガリノート(家庭学習ノート)の書き方の指導, 展示 ・ガリガリノート一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にガリガリタイム(全校生徒で学習する時間)を実施 ・テスト前にガリ勉タイム(自主学習時間)の確保	⑧生徒 学んだことをふり返ったり(復習)次の授業の見通した勉強(予習)を家で行っている。	Aのみ A-60% B-50% C-40%	48(87)	48(86)		○9月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」と答えた生徒は86%だったが、「よくあてはまる」と答えた生徒は48%であり、目標には到達しなかった。家庭学習ノートの取組はしているが、授業に直結する予習復習を家庭学習で行うということが十分に定着していないのではないかと考えられる。保護者が45%と前回から34%下がったが、学校再開とともに家庭学習時間が減ったことが考えられる。	(前期) 家庭学習に対する保護者のアンケート結果が下がったのは、休校期間中に比べて感じていることだと思う。家で様子を見ていても課題を提出できればそれでいいだろうという程度の学習ぶりである。小学校でも家庭学習に対する項目はあるが、保護者が声をかけて行った学習は家庭学習の習慣化という点から違うと捉えているようである。小学校で中学校の定期テストの期間に乗っかり家庭学習強化週間を設定している。
			⑥保護者 子どもは家庭学習の習慣がついている。	A+B A-85% B-75% C-65%	79%	45%	【9月評価時点での成果と課題】 ガリガリノートの質も全体的に高まっていることが見てとれる。家庭学習を充実させることが学力向上にプラスに影響すると考え、今後の予測できない事態に備えることも含めて、生徒たちに自ら学ぶ力を育てていくことが課題となる。今後も、自主学習ノートの推進を進める一方で、具体的にどんな予習復習を行ったらよいか、家庭学習の方法を教えるなど個別の指導を行っていきたい。			
			1 2 教師 家庭学習の習慣化のための取組をしている。	A+B A-90% B-80% C-70%	91%	100%	○目標・計画の再設定(Action) 授業改善を図り、生徒の学習意欲を高めて家庭学習につなげたり、さまざまな学習スキルを経験させたりする。また、キャリアパスポートを活用してキャリア教育を充実させ、将来に目を向けさせることで主体的に学習に取り組む態度を育てていく。また、家庭学習の取組は個人差が大きいので、個別に家庭学習の取組について助言したりして意欲を促していく。			
3	豊かな心と健やかな体を育てる	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえもの羽」(友達の良い行いを伝え合うカード)の取組 ・各学級で行事の後などに、感謝の気持ちや良い行動を伝え合う	⑪生徒 友達の良い行いや長所を見つけることができる。	Aのみ A-65% B-50% C-35%	69(94)	57(100)		○9月評価(Check) 【評価・分析】 生徒、保護者、教師すべての観点で概ね高いポイントとなっており、家庭と学校双方から相乗的に働きかけがなされていると考えられる。「友達の良い行い」の項目に関しては、B判定であるが、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は、他の質問に比べてとても高く、「あてはまる」まで含めると100%となっている。	(前期) 「友達の良いところを見つけることができる」というのは素晴らしいことである。昔はこのようなことを考えることすらなかった。学校としては少人数なのでみんな気持ちは持ってもらいたいと思って取り組んでいる。
			1 5 教師 互いの良いところを見つけ、伝え合うための指導を行っている。	A+B A-90% B-80% C-70%	82%	91%	【9月評価時点での成果と課題】 生徒同士で良いところを見つけ発表し合う「とりごえもの羽」について、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。この活動を行うことによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。			
			⑫生徒 友達に対して、思いやりの心で行動している。	A+B A-95% B-85% C-75%	90%	99%	○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているため、質の深まり・向上を重点的に行っていきたい。具体的なアイデアとしては、テーマを絞ったりとりごえもの羽を月に一回のペースで行う等である。テーマを絞ることで、生徒に「思いやり」「積極性」などについて深く考える機会となればよい。テーマも、生活目標などと関連させることも考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。			
			⑨保護者 子どもは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	A+B A-95% B-85% C-75%	96%	91%				
			1 6 教師 道徳の授業を要とした道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育ってきている。	A+B A-95% B-85% C-75%	90%	84%				
	心と体を鍛える生徒の育成「体」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行	⑬生徒 どこでも誰に対しても自分からあいさつしている。	A+B A-95% B-85% C-75%	91%	94%		○9月評価(Check) 【評価・分析】 地域とのつながりが深いこともあり、「あいさつ」の項目については生徒、保護者ともに「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた割合が高かった。自律清掃に関する項目については6月の調査から「よくあてはまる」のみが8%下がる結果となった。	(前期) 挨拶も積極的に行っており、こちらのほうがされてびっくりするくらいである。	
			⑩保護者 子どもは学校や地域で元気にあいさつしている。	A+B A-90% B-80% C-70%	89%	88%	【9月評価時点での成果と課題】 生徒会のあいさつ運動や青友会のあいさつ運動などが成果につながっている。自律清掃については「あてはまる」まで含めると89%と高い割合を示しているが、「よくあてはまる」の割合が下がっていることは、自律清掃への取組についての趣旨を再度確認する必要がある。			
			1 8 教師 進んであいさつができるように指導している。	A+B A-90% B-80% C-70%	100%	100%	○目標・計画の再設定(Action) 取り組みがマンネリ化してきているので、反省会の持ち方を工夫するなどして意識を高めていく。また、生徒会でゴミ拾い等、気付きに関する取組等を行い、清掃の質をさらに高めていきたい。			
			⑮生徒 自律清掃(無言、見つけ)を通し、自分の心を磨いていると感じる。	Aのみ A-65% B-50% C-35%	51(92)	43(89)				
			2 9 教師 自律清掃(無言、見つけ)を通して心を磨く指導をしている。	A+B A-90% B-80% C-70%	100%	100%				
	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・地域に誇りを持つ生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ○生徒に地域の良さを知らせ、地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り、ジオパークの推進 ・道徳の授業の工夫(地域教材の活用、地域GTの活用) ・運動会、文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加	⑯生徒 地域に愛着や誇りを持っている。	Aのみ A-70% B-60% C-50%	65(93)	58(94)		○9月評価(Check) 【評価・分析】 生徒の「よくあてはまる」と答えた割合は下がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は生徒、保護者、教職員の回答は高い評価であった。地域貢献活動は今年度なかなかできなかったが、学校生活において心理的安全性が保てられていることが考えられる。	(前期) 白山市が日本ジオパーク委員会からの世界ジオパークに推薦が決定したので、ジオパークを意識した取り組みを今後もしていってほしい。	
			⑰保護者 子どもは、地域に愛着や誇りを持っている。	A+B A-80% B-70% C-60%	92%	92%	【9月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校であり、家庭からの期待も高い。生徒の愛郷心をさらに高められるように、学校生活を充実させていく必要がある。また、行事や授業等でできるかぎり地域と連携した取組を行っていく。			
			2 1 教師 地域に愛着や誇りを持つように取り組んだ。	A+B A-90% B-80% C-70%	91%	92%	○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。			
